

ホームページ <http://www.city.inagi.tokyo.jp/>
 携帯電話版 <http://www.city.inagi.tokyo.jp/i/>
 (左のバーコードを読み取り機能付き携帯電話で読み取ってください)

発行 東京都稲城市 編集 秘書広報課広報広聴係 〒206-8601 東京都稲城市東長沼2111 ☎042-378-2111 042-377-4781

混ぜればごみ 分ければ資源 ごみの減量と分別にご協力ください！

乾電池・蛍光灯は 月1回の有害物の日に出してください！

乾電池が入ったままのリモコンやおもちゃが燃えないごみで出されているケースや、蛍光灯が取り付けられたままの照明器具が粗大ごみで出されているケースがあり、ごみの収集・処理に支障をきたしています。

乾電池・蛍光灯に含まれる水銀や鉛は有害物質です。乾電池・蛍光灯は必ず取り外して、「ごみ・リサイクルカレンダー」に記載された月1回の有害物(※)の日に出してください。乾電池・蛍光灯が燃えないごみに混在している場合や取り外されていない場合は収集できませんので、警告シールを貼付させていただきます。

なお、乾電池は市役所・文化センターに設置された専用の回収ボックスに出すこともできます。

※有害物とは、乾電池・蛍光灯・水銀体温計・スプレー缶・カセットボンベ・ガスライター・刃物などです。



家庭ごみの内容を調査しています (組成分析)

市では、7月に家庭ごみの組成分析調査(サンプル調査)を行いました。

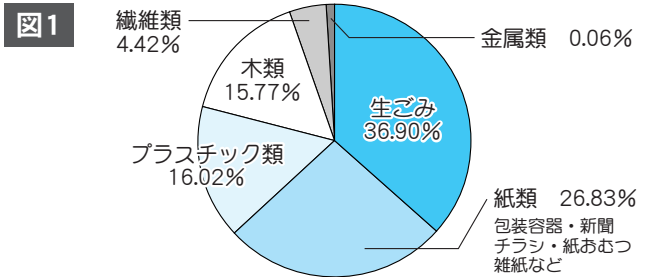
調査結果

燃えるごみ (図1参照)

燃えるごみに占める割合が特に多いものは、1位：生ごみ(約37%)、2位：紙類(約27%)でした。

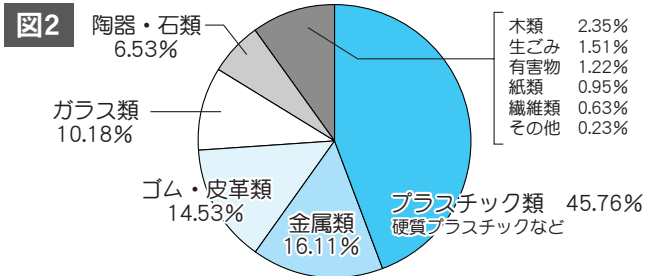
生ごみは、7割以上を水分が占めていました。水を絞ったり、干してから出すことで、ごみの重量を減らしてイヤなニオイも抑えることができ、ごみ処理経費も減ります。

また、紙類の中には3分の1以上、新聞や雑誌、ダンボールなどリサイクルできる古紙が混ざっていました。分別して古紙の収集日に出しましょう。資源として搬出されると市の収入となります。



燃えないごみ (図2参照)

プラスチック類が約46%で一番多く、次いで金属類、ゴム・皮革類となっていました。

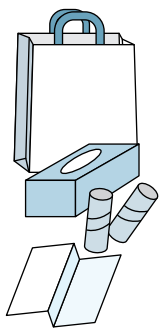


使用済みの紙は古紙の日に出しましょう！



月2回の古紙の日には、新聞・雑誌・ダンボールだけではなく、名刺サイズ以上の紙(紙袋、お菓子の箱、ティッシュ箱、トイレトーパーの芯、封筒、包装紙、カレンダー、ちらし、パンフレットなど)も出せます。分別して紙袋や紙箱に入れるようにして、一杯になったら古紙の日に出してください。

※この点線の枠内が名刺サイズの大きさになります。



生ごみを水切りネットでもうひと絞り！

いらなくなったCDの穴に水切りネットの口を通して「ぎゅっ」と絞れば、手を汚さずに水を切ることができます。生ごみの水切りは、減った重量分の水を燃やさないで済むことから、ごみ処理経費の削減に繋がります。できることから取り組んでいきましょう。



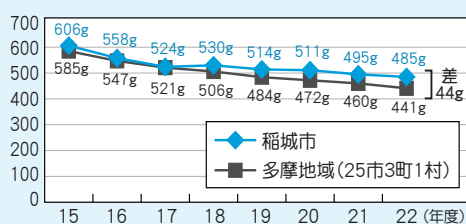
平成22年度ごみ・資源物収集量

平成22年度市収集ごみ・資源物年間収集量

分別	年間収集量
燃えるごみ	13,536 t
燃えないごみ	1,401 t
粗大ごみ	319 t
資源物(※)	3,575 t
合計	18,831 t

※古紙、古布、びん、缶、ペットボトルなど

1人1日当たりのごみ量(燃えるごみと燃えないごみ)



平成22年度の市民1人1日当たりのごみ量は485gで、年間にするると約177kgでした。昨年度の1人1日当たりごみ量から10g減で、ごみ袋代に換算すると1人1,770円節約できたこととなります。

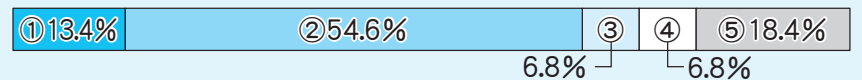
多摩地域の1人1日当たりの平均ごみ量は441gでした。資源の日に出せるものがないかもう一度チェックして、更なるごみ減量にご協力をお願いします。小さいごみ袋で出せるようになれば袋代の節約にもなり、一石二鳥の効果を得ることができます。

※多摩地域との44gの差は、主に廃プラスチックの分別収集を実施していないことによるものです。稲城市では、プラスチックは焼却し、焼却熱を発電や市立病院の冷暖房などの熱源として利用する「サーマルリサイクル」を採用しています。

平成22年度ごみ処理経費(合計約14億7千万円)

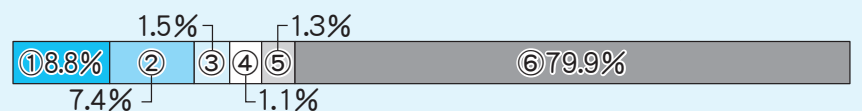
ごみ処理経費の内訳(重量によって増減します)

- ①ごみを集めてクリーンセンター多摩川へ運ぶ費用 → 197,671千円
- ②クリーンセンター多摩川でごみを燃やしたり、砕いて小さくしたりする費用 → 804,240千円
- ③クリーンセンター多摩川でごみを燃やして残った灰の一部を日の出町の東京たまエコセメント化施設に運び、エコセメントにする費用 → 100,202千円
- ④その他経費(指定収集袋作成、販売経費など) → 100,210千円
- ⑤資源となる古紙やペットボトルなどをリサイクル施設に運んで、つぶしたりする費用 → 270,599千円



財源の内訳(収入など)

- ①一般家庭からのごみ処理手数料 → 130,148千円
- ②許可業者の収集運搬による事業者のごみの手数料 → 108,462千円
- ③粗大ごみ処理手数料 → 22,703千円
- ④資源売却収入 → 16,205千円
- ⑤その他の収入 → 18,784千円
- ⑥一般財源 → 1,176,620千円



スプレー缶・カセットボンベ・ライターは有害物へ！

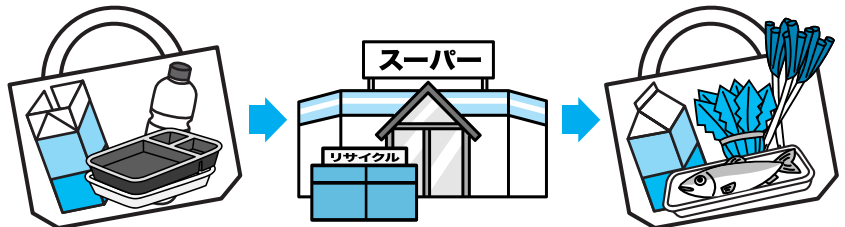


▲出火車両から見つかったスプレー缶

燃えないごみにスプレー缶、カセットボンベ、ライターが混在していることがあります。ごみ収集車の中で爆発し車両火災の原因になる恐れがあり、大変危険ですので、ガスが全く残っていても、月に1回の有害物の日に出してください。中身が残っている場合には、袋に「中身有り」と表記して出してください。

お買い物にはマイバッグを(行きも帰りもマイバッグ)

マイバッグは、行きは発泡トレイやペットボトル、牛乳パックなど、店頭回収に出せるものを詰めてお出掛けできるので便利です。無料でもらえるレジ袋にも製造から廃棄・焼却されるまでにたくさんの経費・エネルギーが使われています。レジ袋の代わりにマイバッグを使いましょう。



行きに空の容器を入れて 容器はお店の回収ボックスへ 買ったものを入れられます

できるだけ店頭回収を利用しましょう

発泡トレイやペットボトルなど容器を販売している大型店舗は、容器を収集処理する費用を一定の割合で負担しなければなりません(容器包装リサイクル法)。この制度は、店舗が容器の店頭回収を行えば、回収重量により費用が減額され、負担が減るといった仕組みになっています。市は店頭回収分の収集・運搬経費を減らすことができ、店舗と市の双方にとってメリットがあります。

プラスチックだからといって、燃えないごみに出していないませんか？

▶これらはみな、燃えないごみに出せるものです



柔らかいプラスチック(コンビニなどの弁当容器、シャンプーの容器、食用油のボトル、歯磨き粉のチューブなど)は燃えるごみの日に出すことができます。

硬いプラスチック(おもちゃ、バケツ、ポリタンクなど)は燃えないごみになります。

ごみ焼却後の灰もリサイクルしています

皆さんの家庭から出た燃えるごみは、クリーンセンター多摩川に運搬し、焼却しています。燃えないごみも、破砕機で細かく砕いてから焼却しています。焼却後の残さを含む灰はスラグ化し、建設資材などに利用しています。残る飛灰も、日の出町にある東京たま広域資源循環組合二ツ塚処分場内の「東京たまエコセメント化施設」に送られ、エコセメントに生まれ変わります。

しかし、このエコセメント化には1トン当たりおよそ126,000円(平成22年度)という大きな経費が掛かっています。今後も焼却灰のリサイクルを維持していくために市民一人ひとりが、資源物の分別徹底と、更なるごみ減量に取り組んでいかなければなりません。



▲スラグは市民の方に無償で提供しています。植木鉢の土や庭土に混ぜると水はけが良くなります。詳しくは、環境課ごみ・リサイクル係に問い合わせてください。



▲歩道のインターロッキングブロックにエコセメントが使われています(JR南武線矢野口駅周辺)

実施しました

夏休み親子でごみ処理施設見学会

8月4日に「夏休み親子でごみ処理施設見学会」を実施しました。当日は26人(大人10人、子ども16人)の方が参加し、市内のクリーンセンター多摩川と日の出町の最終処分場を1日見学して、私たちの出すごみの行方について学びました。



▲クリーンセンター多摩川での勉強の様子

子どもたちの感想

- たのしくて、ドキドキした。
- 家のごみがさいごにどうなっているか知ることができた。
- 色んなごみも生まれ変わることをわかった。
- 夏休みのしゅくだいにやくだったからよかった。

ごみ減量説明会

8月26日に環境学習会会場(旧リサイクルショップ)にてごみ減量説明会を実施しました。ごみ処理の流れや分別方法の解説の他、「環境クイズ」に参加していただくなどして、ごみを減らすポイントについて話し合いました。

ごみ減量説明会は出張講座でも行っています。地区のごみ減量推進員さんや市職員がご希望の場所に伺いますので、お気軽に申し込んでください。



利用しよう！ 生ごみ処理容器購入補助制度

生ごみ処理容器を使って台所から出る生ごみを減らしてみませんか？生ごみを分解し、堆肥化・消滅してくれる「生ごみ処理容器」を購入する際に、市から助成金が交付されます。

生ごみが減れば、環境に優しいだけでなく、ごみ袋もワンサイズ小さくできるので、ごみ袋代の節約にもなります。ぜひ、市からの助成金を活用し、生ごみ処理容器の購入をご検討ください(写真はイメージです)。



- ▷助成額 ○堆肥化型・消滅型は、一基3,000円(定価6,000円～)
- 電動型は、購入額の2分の1(定価は様々です)
- ※ただし、上限10,000円

生ごみ堆肥化体験モニター 体験結果

昨年の10月より今年の3月まで、ダンボールを使い、ピートモス、もみ殻くん炭、竹チップを配合した生ごみの堆肥化体験モニター募集を行い、29人の方々に参加していただきました。

今回は冬季の寒い時期からの体験実施となったため、発酵・堆肥化が進まず苦勞された方が多かったようですが、「生ごみが出ないので、燃えるごみを出す日が減った」「小バエの発生した際には意欲が減退したが、頑張っているとごみの搬出量が減り、ごみ袋のサイズもワンサイズ小さくなった」「作成した堆肥はおいしい野菜作りや花壇に使用し、花壇には美しい花が咲いている」などのご意見もいただきました。



▲堆肥の使い方などを知りたい方は、連絡してください

燃えるごみのおよそ4割を占める生ごみが、堆肥として資源化されれば大きなごみ減量となります。ごみ減量説明会や各種イベントなど様々な機会をとらえて、生ごみ処理容器の購入補助などをPRしていきたいと考えます。モニターの皆様、ご協力ありがとうございました。